

生物調査の結果（概要）について

1 調査内容

(1) 概要

- ・尼崎市生物多様性地域戦略を策定するにあたって必要となる尼崎市における生物多様性・生態系に関する情報を把握するため、現地調査（22地点）、補足現地調査（62地点（草本植生群落調査：60地点、ピオトープ調査：2地点）、既存資料調査（52文献）、聞き取り調査（2名）、を実施しました。

(2) 調査場所・対象

- ・現地調査・補足現地調査において対象とする場所は尼崎市の概況を把握することを目的とし、現況の地図を基本に古地図なども考慮しながら設定しています。
- ・現時点において調査場所の候補となる場所としては、陸域では樹林地、田畑、公園、社寺林、水域では河川、水路、運河、海域などが考えられたため、都市化が進展する前から残存している場所として樹林地、田畑、河川、水路、海域などがあり、都市化の進展に伴った整備された場所としては、公園、運河などがあります（別紙のとおり）。

No.	調査場所	対象						
		植物		昆虫類	鳥類	水生生物		その他
		植物相	植生			魚類	底生動物	
1	武庫川	聞	補			現資	現資	現
2	猪名川	資聞		資聞	資	現資	現資	現資聞
3	藻川	資聞		資聞	資	現資聞	現資聞	現資聞
4	庄下川	資聞	補	資	資	現資聞	現資	現資聞
5	蓬川					現資	現資	現
6	昆陽川		補			現資聞	現資	現
7	猪名川自然林	現	現	現資	現			現
8	佐璞丘	現	現	現	現			現
9	松原神社	現	現	現	現			現
10	富松神社	現	現	現	現			現
11	食満2・3丁目	現	補	現	現			現
12	西武庫公園	現聞	現補	現	現	現	現	現
13	上坂部西公園	現	補	現	現	現聞	現	現
14	日本製鉄（株）周辺	現		現	現			現
15	下坂部1・2丁目	現		現	現			現
16	武庫之荘3・4丁目	現		現	現			現
17	武庫之荘本町1～3丁目	現	補	現	現			現
18	蓬川町一帯	現	現補	現	現			現
19	記念公園 - 街路樹	現	補	現	現			現
20	大物川廢川跡（小田南公園）	現	補	現	現			現
21	元浜緑地 - 祇園橋緑地	現	現補	現	現			現
22	JR神戸線 沿線の緑地	現	補	現	現	聞		現
23	成徳小学校	補	補	補	補	補	補	補

No.	調査場所	対象						
		植物		昆虫類	鳥類	水生生物		その他
		植物相	植生			魚類	底生動物	
24	潮小学校ビオトープ	補		補	補	補	補	補
ア	武庫川 2 号水路					資	資	
イ	神崎川					資	資	
ウ	浜田排水路					資	資	
エ	西富松排水路					資	資	
オ	椎堂・田能地先			資				聞
カ	尼崎の森中央緑地	資		資	資			資聞
キ	農業公園	聞					聞	聞
ク	工場・工場内神社緑地	資						
ケ	海城・運河			資	資	資	資	
コ	その他市域	聞			資	資聞		聞

- ※1 現：現地調査、補：補足現地調査、資：既存資料調査、聞：聞き取り調査（尼崎市生物多様性地域戦略策定部会での情報を含む）を示す。No.1～24 は現地調査・補足現地調査の対象とした場所、ア～コについては既存資料調査・聞き取り調査によって得られた生物の生息・生育場所を示す。なお、戦略は 10 年間ごとに改定を行うこととしているため、既存資料調査については直近 10 年間（平成 24 年（2012 年）～令和 3 年（2021 年））の記録を現況として取り扱うこととしている。
- ※2 No.1 武庫川については、植物相、昆虫類、鳥類に関する情報が得られていないことから令和 5 年度に補足調査を行う予定としている。
- ※3 No.7 猪名川自然林は猪名川改修工事の一環として行われた利倉捷水路の整備によって残された旧猪名川の堤防に存在する河畔林のことで、猪名川緑地、猪名川公園、猪名川風致公園、船詰公園、西浦公園にある樹林として残存している。
- ※4 No.8 佐璞丘は藻川の西岸に残された河畔林のことで佐璞丘公園の周辺の樹林として残存している。
- ※5 既存資料調査、聞き取り調査の結果については、近隣の調査場所に区分できるものについては適宜、区分しており、いずれの調査場所にも区分できないものについては「その他地域」に区分している。

2 調査結果

(1) 確認種数

- 各種調査によって植物 931 種、昆虫類 1,116 種、鳥類 91 種、魚類 86 種、底生動物 331 種、その他（哺乳類・両生類・爬虫類） 25 種の合計 2,580 種が確認されました。
- 収集資料の充実度、調査場所の面積などの影響があるため一概には確認種数の多少を比較することはできませんが、猪名川、藻川、猪名川自然林、上坂部西公園、尼崎の森中央緑地などでは様々な種類の生物が多数確認されています。

	調査場所	植物	昆虫類	鳥類	水生生物		その他 哺乳類・両生類・爬虫類	合計
					魚類	底生動物		
1	武庫川	84			21	52		157
2	猪名川	69	346	31	45	230	5	726
3	藻川	373	270	29	48	211	12	943
4	庄下川	114	25	16	20	41	8	224
5	蓬川				4	8		12
6	昆陽川	15			10	39		64
7	猪名川自然林	273	154	16			3	446
8	佐璞丘	115	123	9			3	250
9	松原神社	73	66	12			1	152
10	富松神社	88	63	11				162

	調査場所	植物	昆虫類	鳥類	水生生物		その他	合計
					魚類	底生動物	哺乳類・両生類・爬虫類	
11	食満 2・3 丁目	97	92	10			3	202
12	西武庫公園	200	107	14	2	16	2	341
13	上坂部西公園	317	116	12	3	40		488
14	日本製鉄（株）周辺	83	85	14				182
15	下坂部 1・2 丁目	83	66	7			1	157
16	武庫之荘 3・4 丁目	85	36	10				131
17	武庫之荘本町 1～3 丁目	101	96	9			4	210
18	蓬川町一帯	192	165	21	2	6	3	389
19	記念公園 - 街路樹	134	87	11			1	233
20	大物川廃川跡（小田南公園）	199	116	11			1	327
21	元浜緑地 - 祇園橋緑地	178	93	13			2	286
22	JR 神戸線 沿線の緑地	103	70	8				181
23	成徳小学校	171	121	9	2	6	3	312
24	潮小学校ビオトープ		8					8
ア	武庫川 2 号水路				6	27		33
イ	神崎川				1	6		7
ウ	浜田排水路				5	24		29
エ	西富松排水路				3	12		15
オ	椎堂・田能地先		21				1	22
カ	尼崎の森中央緑地	206	547	46			8	807
キ	農業公園	2	4			6	1	13
ク	工場・工場内神社緑地	25						25
ケ	海域・運河		1	67	40	19		127
コ	その他市域	2			7		5	14
	合計	931	1,116	91	86	331	25	2,580
	【参考】現地調査 合計 ※捕捉現地調査含む	663	512	40	22	97	9	1,343
	【参考】既存資料調査 合計	591	855	120	106	320	18	2,010
	【参考】聞き取り調査 合計	16	4	0	13	9	12	54

(2) 重要種

・天然記念物（文化財保護法）、国内希少野生動植物種（種の保存法）、環境省や兵庫県、地理的に近い大阪府が作成したレッドリストに該当するものと重要種として抽出しました。なお、天然記念物や国内希少野生動植物種に該当する種はありませんでした。

・植物 62 種、鳥類 23 種、昆虫類 17 種、魚類 14 種、底生動物 8 種、その他（両生類・爬虫類・哺乳類） 7 種の 131 種が確認されました。

	調査場所	植物	昆虫類	鳥類	水生生物		その他	合計
					魚類	底生動物	哺乳類・両生類・爬虫類	
1	武庫川	6			5	2		13
2	猪名川	5	8	9	7	4	3	36
3	藻川	7	3	4	10	5	4	33
4	庄下川	2	1		4	1	1	9

	調査場所	植物	昆虫類	鳥類	水生生物		その他	合計
					魚類	底生動物	哺乳類・両生類・爬虫類	
5	蓬川	0						0
6	昆陽川	0			2	2		4
7	猪名川自然林	5	2	1			1	9
8	佐璞丘	6	1				1	8
9	松原神社	2	1					3
10	富松神社	5	1					6
11	食満 2・3 丁目	3		1				4
12	西武庫公園	6	3		1			10
13	上坂部西公園	25	1		1			27
14	日本製鉄(株)周辺	5						5
15	下坂部 1・2 丁目	1	1					2
16	武庫之荘 3・4 丁目	6						6
17	武庫之荘本町 1~3 丁目	2					2	4
18	蓬川町一帯	9	2				1	12
19	記念公園 - 街路樹	4					1	5
20	大物川廃川跡(小田南公園)	7						7
21	元浜緑地 - 祇園橋緑地	7						7
22	JR 神戸線 沿線の緑地	3						3
23	成徳小学校							
24	潮小学校ビオトープ							
ア	武庫川 2 号水路							
イ	神崎川							
ウ	浜田排水路				1	1		2
エ	西富松排水路							
オ	椎堂・田能地先		1				1	2
カ	尼崎の森中央緑地	11	5	10			3	29
キ	農業公園	2	1					3
ク	工場・工場内神社緑地							
ケ	海域・運河			16	6	1		23
コ	その他市域	3			6			9
	合計	62	17	23	14	8	7	131
	【参考】現地調査 合計 ※捕捉現地調査含む	46	8	2	2	2	2	62
	【参考】既存資料調査 合計	18	10	22	14	8	5	77
	【参考】聞き取り調査 合計	9	1	0	6	1	5	22

ア 植物

- ・63 種が確認されていますが、多くは栽培品種、またはそれらの逸出個体であると考えられ、自生種として考えられるものは 23 種となっています。
- ・河川敷や水田・水路などの水辺・湿性の環境に生息する種が多く確認されています。この他に住宅地ではニシキソウ、樹林地ではムクロジが確認されています。

デンジソウ、ヒメミズワラビ、ウマノスズクサ、クロモ、ササバモ、ナガエミクリ、ヤガミ

スゲ、ヒトモトススキ、ヌマガヤツリ、フトイ、ツルフジバカマ、カワラサイコ、ゴキヅル、ニシキソウ、ヒメミソハギ、ミズマツバ、コイヌガラシ、サデクサ、コギシギシ、ケテイカカズラ、アオイゴケ、カワヂシャ、ムクロジ（自生個体と考えられる種のみを掲載）

イ 鳥類

- ・水辺・草地に生息する種が多く確認されており、確認種数は多くありませんが樹林に生息する種も確認されています。猛禽類も確認されていますが、市内で営巣しているのではなく、飛来したものが確認されたものと考えられます。

ササゴイ、コチドリ、ケリ、アオアシシギ、イソシギ、コアジサシ、ミサゴ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、ハヤブサ、ヒバリ、オオヨシキリ、セッカ、コムクドリ、ルリビタキ、ノビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、アオジ

ウ 昆虫類

- ・生息環境として水辺・緑地が必要となるトンボ類が多く確認されているほか、草地に生息するバッタ類・チョウ類が確認されている。
- ・昆虫類を捕食するハチ類が確認されており、エサとなる昆虫類が生息できる草地・樹林が残されていると考えられる。
- ・朽木に生息するオオクワガタが確認されているが、飼育個体が逸出したものと考えられる。

セスジイトトンボ、コフキトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、マイコアカネ、ミヤマアカネ、カヤキリ、ヤスマツアメンボ、シルビアシジミ、ハマオモトヨトウ、オオクワガタ、ドウガネブイブイ、ヒメボタル、ヤマトアシナガバチ、モンズズメバチ、ヤマトスナハキバチ本土亜種

【参考】ヒメボタル

- ・河川敷で確認されるヒメボタルについては、国土交通省猪名川河川事務所が公表している資料を基に植物群落の分布に関する情報とヒメボタルが確認されている位置情報を重ね合わせ、植物群落ごとのヒメボタルの確認数を整理したところオギ群落、セイタカヨシ群落、カナムグラ群落といった草本群落で確認されています。
- ・尼崎市における過去からの生息地としては農業公園があり、猪名川・藻川に生息する個体群は伊丹市域に由来するものと考えられます。

エ 両生類・爬虫類・哺乳類

- ・カヤネズミが猪名川・藻川の河川敷、尼崎の森中央緑地で確認されているほか、キツネが猪名川・藻川の河川敷などで確認されています。また、ニホンイタチが食満2丁目・3丁目を確認されています。
- ・耕作地に依存して生息するトノサマガエルやツチガエルが武庫之荘本町の水田・水路で確認されています。
- ・ニホンイシガメ、ニホンスッポンが藻川などで確認されています。

- ・兵庫県版レッドリストでは市内には分布していないとされているニホンヤモリが各地の樹林において確認されています。

カヤネズミ、キツネ、ニホンイタチ、トノサマガエル、ツチガエル、ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ

オ 魚類

- ・重要種の多くは、武庫川、猪名川、藻川を中心に確認されていますが、一部の重要種は庄下川や昆陽川などでも確認されています。
- ・回遊魚であるニホンウナギ、アユ、カジカ（型不明）、ウキゴリが武庫川、猪名川、藻川を中心に確認されています。

ニホンウナギ、ゲンゴロウブナ、カネヒラ、アブラハヤ、ドジョウ、チュウガタスジシマドジョウ、アカザ、アユ、ミナミメダカ、カジカ（型不明）、トサカギンポ、ヒナハゼ、シマヒレヨシノボリ、ウキゴリ

カ 底生動物

- ・水田地帯の用水路・側溝などの水際における移行帯（エコトーン）に生息するナガオカモノアラガイが藻川で確認されています。また、猪名川、藻川において汽水域に生息するヤマトシジミが確認されています。
- ・回遊性ミズレヌマエビ、塩生湿地に生息するクロベンケイガニが武庫川、猪名川、藻川において確認されています。
- ・武庫川、猪名川、藻川では塩生湿地や汽水域に生息する種、回遊性の種など市内の他の河川ではみられてない種が確認されています。

カワザンショウガイ、ヒラマキミズマイマイ、ナガオカモノアラガイ、ヤマトシジミ、イボビル、ミズレヌマエビ、クロベンケイガニ、ムスジイトトンボ

(3) 外来種

- ・特定外来生物（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）、生態系被害防止外来種リスト（環境省）への掲載種（以下「外来種リスト種」という。）、兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト（ブラックリスト）（2010）（兵庫県）への掲載種（以下「ブラックリスト種」という。）に該当するものを外来種として抽出しました（本資料では、取扱いに規制のある特定外来生物を抜粋しています）。
- ・植物 95 種（特定外来生物：6 種）、鳥類 3 種（特定外来生物：0 種）、昆虫類 3 種（特定外来生物：1 種）、魚類 6 種（特定外来生物：3 種）、底生動物 3 種（特定外来生物：0 種）、その他（両生類・爬虫類・哺乳類） 6 種（特定外来生物：3 種）の 116 種（特定外来生物：13 種）が確認されました。

	調査場所	植物	昆虫類	鳥類	水生生物		その他	合計
					魚類	底生動物	哺乳類・両生類・爬虫類	
1	武庫川	20			3	1		24
2	猪名川	18	1	1	4	1	3	28
3	藻川	57		1	4	2	4	68
4	庄下川	24		1	6	1	1	33
5	蓬川				1	2		3
6	昆陽川	4			3	1		8
7	猪名川自然林	30		1			1	32
8	佐璞丘	9					1	10
9	松原神社	6		1				7
10	富松神社	6		1				7
11	食満2・3丁目	13		1			1	15
12	西武庫公園	23		1				24
13	上坂部西公園	36		1	1	1		39
14	日本製鉄(株)	11	1	1				13
15	下坂部1・2丁目	10		1				11
16	武庫之荘3・4丁目	14		1				15
17	武庫之荘本町1~3丁目	17		2			2	21
18	蓬川町一帯	23		1			1	25
19	記念公園-街路樹	16		1			1	18
20	大物川廃川跡(小田南公園)	27		2				29
21	元浜緑地-祇園橋緑地	27		1				28
22	JR神戸線 沿線の緑地	27						27
23	成徳小学校							
24	潮小学校ビオトープ				1			1
ア	武庫川2号水路				1			1
イ	神崎川					1		1
ウ	浜田排水路					1		1
エ	西富松排水路				1	1		2
オ	椎堂・田能地先						1	1
カ	尼崎の森中央緑地	2	2	1			3	8
キ	農業公園					1		1
ク	工場・神社緑地	1						1
ケ	海域・運河		1			1		2
コ	その他市域	1						1
合計		95	3	3	6	3	6	116
【参考】現地調査 合計 ※捕捉現地調査含む		75	1	3	4	2	3	88
【参考】既存資料調査 合計		61	3	1	6	3	5	79
【参考】聞き取り調査 合計		3	0	0	0	1	1	5

ア 植物

- ・ナガエツルノゲイトウは分布範囲が広く、武庫川、猪名川、庄下川、昆陽川などで確認されました。
- ・いずれの特定外来生物についても河道・河川敷を中心に確認されています。

オオフサモ、アレチウリ、ナガエツルノゲイトウ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、ミズヒマワリ

イ 鳥類

- ・特定外来生物は確認されていませんが、ブラックリスト種であるドバトが広く確認されています。

—

ウ 昆虫類

- ・特定外来生物に関する記録としては平成 29 年に確認されたヒアリがありますが、すでに燻蒸処理により死滅させられています。また、平成 29 年度から令和元年度までの 3 年間にわたって発見場所周辺において調査が行われましたが、ヒアリは確認されていません。

ヒアリ

ウ 両生類・昆虫類・哺乳類

- ・ウシガエルは猪名川、藻川、庄下川、猪名川自然林、尼崎の森中央緑地で確認されています
- ・ヌートリアは猪名川、藻川、アライグマは松原神社で確認されています。なお、農作物への被害なども生じていることから実際にはこれら以外の場所でも生息している可能性は高いと考えられます。
- ・令和 5 年 6 月から特定外来生物（条件付特定外来生物）に指定されるミシシippアカミミガメは猪名川、藻川、庄下川などの河川、西武庫公園、元浜緑地などの公園の池で確認されました。

ヌートリア、アライグマ、ウシガエル

エ 魚類

- ・タガヤシは分布範囲が広く、武庫川、猪名川、藻川、庄下川、昆陽川などの河川、潮小学校のビオトープで確認されました。
- ・ブルーギルは武庫川、猪名川、藻川、庄下川、オオクチバスは猪名川、藻川、庄下川、昆陽川で確認されており、両種とも市内の河川に広く分布しています。

カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス

オ 底生動物

- ・令和 5 年 6 月から特定外来生物（条件付特定外来生物）に指定されるアメリカザリガニは武庫川、庄下川、昆陽川などの河川や水路で広く確認されました。

—

3 生物の生息・生育環境

(1) 生物の生息・生育環境の区分の整理

【第 1 回部会でのご指摘】

尼崎市においては人の手の入っていない場所はなく、厳密な意味での「自然」というものは存在せず、過去から残存している樹林・河川であっても基本的には「二次的自然」として取り扱われるべきもので、環境の区分については整理の必要性が必要である。

- ➡厳密な意味での「自然」の定義に基づいた場合には、尼崎市には自然は存在しないこととなりますが、市民の感覚からすると河川や一定規模以上の緑地などについては「自然」と認識されている場合があります。
- ➡これらのことから、尼崎市における都市化が進展する前（概ね明治中期（1900 年頃）以前）から存在する環境を陸域・水域を含め「身近な自然」、都市化の進展に伴って（概ね明治中期（1900 年頃）以降）に整備された環境については陸域を「緑地」、水域を「水辺」とします。

区分	区分の説明	主に想定される環境
身近な自然	都市化が進展する前（概ね明治中期（1900 年）以前）から存在する環境	河川、河畔林、社寺林、田畑、水路 など
緑地	都市化の進展に伴って（概ね明治中期（1900 年）以降）整備された環境のうち陸域のもの	公園（樹林・草地）、工場緑地、住宅地、ビオトープ など
水辺	都市化の進展に伴って（概ね明治中期（1900 年）以降）整備された環境のうち水域のもの	公園（池・水路）、海域・運河、ビオトープ など

(2) 生物の生息・生育環境の状況

ア 身近な自然

(ア) 河川

武庫川	<ul style="list-style-type: none"> ・武庫川・天神川合流地点の周辺に存在するカワラサイコ個体群が、兵庫県 RDB2020（植物・植物群落）において C ランクに選定されています。 ・回遊性の水生生物が確認されており、海と上流部をつなぐ移動経路となっています。 ・特定外来生物である植物、魚類が確認されています。 ・河川改修が進んでおり、多数の落差工が設置されており、全体的に緩やかな流れが続く単調な環境となっていますが、中州・寄州があり砂礫地を好む
-----	---

	植物が生息しています。
猪名川・藻川	<ul style="list-style-type: none"> ・藻川（猪名川との分流点から合流点まで）の生態系が、兵庫県 RL2011（地形・地質・自然景観・生態系）において C ランクに選定されています。 ・淡水性・汽水性・回遊性の水生生物が確認されており、海と上流部をつなぐ移動経路となっています。 ・市街地にはみられない様々な植物、鳥類、昆虫類、両生類、爬虫類、哺乳類が確認されています。 ・特定外来生物である植物、両生類、両生類、魚類が確認されています。 ・藻川には潮止堰がなく、最も下流にある堰が大井井堰（佐璞丘付近）となっており、海水が中園橋付近まで進入し、感潮域の上限となっています。また、猪名川・藻川の合流部より上流側にはワンドや干潟、河川敷・水際の植生など多様な環境がありますが、下流側は護岸が整備されており、水際の多様性が失われています。また、河川改修に伴い中州・寄州の樹林化や砂礫の河原の減少、滞筋の固定化などが進んでいます。
庄下川・昆陽川	<ul style="list-style-type: none"> ・両河川とも魚類などについては重要種が確認される一方で、植物、魚類、底生動物などの外来種も確認されています。 ・庄下川・昆陽川は市内の中央部を流下する河川であり、両河川の合流地点より上流側の庄下川については捨石などによる多自然護岸・木工沈床となっている部分があり抽水植物なども見られ、昆陽川については河道内に植生があるなど生物の生息・生育に適した環境があります。一方で、合流点より下流側については、中州・寄州があるものの、わずかに植生が見られる程度であり、両岸は矢板護岸となっています。
蓬川	<ul style="list-style-type: none"> ・下流域において冬季に水鳥が渡来しますが、両岸は矢板護岸となっているほか、感潮区間であるため植生はほとんどありません。

(イ) 河畔林

猪名川自然林	<ul style="list-style-type: none"> ・猪名川自然林の一部である猪名川公園に存在するエノキ・ムクノキ群落が、兵庫県 RDB2020（植物・植物群落）において C ランクに選定されています。 ・猪名川自然林の自然景観が、兵庫県 RL2011（地形・地質・自然景観・生態系）において B ランクに選定されています。 ・木本や草本など多様な植物が確認されており、エノキ、ムクノキなどから構成される河畔林ですが、亜高木層や低木層に常緑樹が確認されており、常緑樹林への遷移が進むことが懸念されます。 ・鳥類については人家周辺で見られる種だけでなく、樹林性、池があるため水辺に生息する種も確認されています。 ・昆虫類については草地や樹林・林床に生息する種が確認されているほか、トンボ類・チョウ類なども多数確認されています。
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンヤモリが確認されており、樹林内に朽木・枯枝がある環境が維持されています。また、特定外来生物のウシガエルが確認されています。
佐璞丘	<ul style="list-style-type: none"> ・猪名寺廃寺跡に存在するエノキ・ムクノキ群落が、兵庫県 RDB2020 (植物・植物群落) において C ランクに選定されています。 ・エノキ、ムクノキなどから構成される河畔林ですが、亜高木層や低木層に常緑樹が確認されており、常緑樹林への遷移が進むことが懸念されます。なお、ギャップにはエノキの実生も確認されています。 ・鳥類については人家周辺で見られる種だけでなく、樹林性の種も確認されています。河川に隣接していますが、水辺に生息する鳥類は確認されませんでした。 ・昆虫類についてはトンボ類・チョウ類が確認されていますが同じ河畔林である猪名川自然林と比較すると少ない結果でした。また、草地に生息する種は少なかったですが、樹林・林床に生息する種は多く確認されました。 ・アマガエルが確認されていることから周辺の水辺環境との連続性が維持されているほか、ニホンヤモリが確認されており、樹林内に朽木・枯枝がある環境が維持されています。

(ウ) 社寺林

松原神社 富松神社	<ul style="list-style-type: none"> ・クスノキ、エノキ、ムクノキなどから構成される樹林となっています。 ・鳥類については樹林性の種も確認されていますが、人家周辺で見られる種が多い傾向があります。 ・昆虫類については林床に生息する種が確認されていますが、種数はそれほど多くありません。
--------------	---

(エ) 田畑

食満 2・3 丁目	<ul style="list-style-type: none"> ・植物については重要種も含め水田・畑地という環境に特徴的に生育する種が確認されています。 ・両生類については複数種のカエル類が確認されており、カエル類の餌となる昆虫類が生息できる環境が維持されていると考えられる。 ・鳥類についてはケリなど水田・畑地などの開けた環境を好む種も確認されているが、人家周辺に生息する種が多く、個々の水田・畑地が小面積に分断されていることが原因である可能性があります。
-----------	---

(オ) 水路

市内一円	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 43 号以北に広く網目状に分布しており、聞き取り調査の結果では重要種を含めた動植物が点在していることが確認されています。
------	--

※水路については情報が不足しており、情報の収集・蓄積が必要です。

イ 緑地・水辺

(ア) 公園（樹林・草地・池・水路）

<p>西武庫公園 上坂部西公園 尼崎の森中央緑地 農業公園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物については植栽された木本で構成され、路傍雑草も多く確認されていますが、植栽、または逸出したものと考えられる重要種も確認されています。また、水路においては自生していると考えられる重要種が確認されていますが、特定外来生物も確認されています。 ・鳥類については人家周辺で確認される種が多いが、樹林性の種や池・水路などがある公園では水辺に生息するセキレイ類・サギ類も確認されています。一方で、高茎草地・林縁部でみられるホオジロ類などはほとんど確認されていません。 ・昆虫類については、樹林・草地で一般的に見られる種に加え、トンボ類が確認されています。一方で、林床・朽木に生息する種が少ない状況にあります。また、トンボ類はハチ類、ヒメボタルなどの重要種も確認されています。 ・魚類については重要種が確認されている一方で、特定外来生物が確認されています。また、両生類・爬虫類については外来種も確認されています。
---	---

(イ) 工場緑地

<p>東向島東之町・東向島西之町・東高洲町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物、鳥類、昆虫類ともに市街地で一般的に見られる種が確認されています。
---------------------------	--

(ウ) 住宅地

<p>武庫之荘 3・4 丁目 下坂部 1・2 丁目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物、鳥類、昆虫類ともに一部に重要種が確認されていますが、市街地で一般的に見られる種が確認されています。
-----------------------------------	---

(エ) 住宅地・農地の混在地

<p>武庫之荘本町 1～3 丁目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物については重要種も含め水田・畑地という環境に特徴的に生育する種が確認されています。 ・鳥類については人家周辺に生息する種が確認されています。 ・昆虫類については、水田でしかみられない種が確認されたほか、周辺に花が少ないため、市民農園において多くの種が確認されており、調査場所全体では住宅地よりも多くの種が確認されています。 ・両生類については水田において複数種のカエル類が確認されており、カエル類の餌となる昆虫類が生息できる環境が維持されていると考えられます。
----------------------	--

(オ) 学校ビオトープ

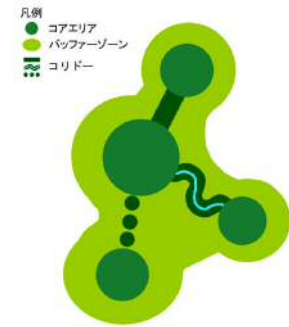
成徳小学校 潮小学校	<ul style="list-style-type: none">・植物については、池などにアサザ、デンジソウなどの市内では自生個体を見ることが困難な植物の栽培、ミナミメダカなどの魚類が飼育されています。・成徳小学校では、人家周辺で見られる種や樹林性の鳥類、チョウ類、カマキリ類、バッタ・コオロギ類などの昆虫類、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲなどの爬虫類が確認されているほか、両学校とも池が整備されており、トンボ類などの生息場所となっています。・樹林、草地、田畑、池・水路、花壇などの様々な要素が混在する環境は市内には少ないと考えられますが、規模・要素は学校ごとに異なっている状況となっています。
---------------	---

(カ) 海域・運河

海域・尼崎運河	<ul style="list-style-type: none">・臨海部についてはホシハジロの渡来地として環境省が「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定しています。・海域については魚釣り公園において多数の身近な汽水・海水魚が確認されています。・尼崎運河は閘門・水門などにより閉鎖的な環境であるため、海水交換が生じにくく、水質が高くない状況となっていますが、多数の汽水・海水魚が確認されているほか、冬季には多数の水鳥が渡来することが確認されています。
---------	--

4 エコロジカルネットワーク形成の可能性

- ・エコロジカルネットワークはコアエリア（核となる地域：採餌、ねぐら、繁殖環境）、バッファゾーン（核となる地域の緩衝地域：外部との相互影響を軽減する地域）、コリドー（回廊：コアエリア・バッファゾーン同士をつなぐ回廊）の3つの要素で構成されています。



参考・出典：全国エコロジカル・ネットワーク構想（環境省）

河川を基軸とした生態系ネットワーク形成のための手引（河川管理者向け）（案）（国土交通省）

（1）コアエリア

- ・多様な種が生息・生育している、またはその可能性がある場所（樹林面積が概ね2ha以上ある場所、河川のうち植生が確認されている場所）、レッドリストなどで選定されている場所については重要視する場所として選定します。

農業公園、佐璞丘、武庫川河川敷緑地、猪名川自然林、西武庫公園、記念公園、蓬川緑地周辺、元浜緑地、尼崎の森中央緑地、猪名川、藻川、武庫川、庄下川・昆陽川

（2）コリドー

- ・生物の移動経路などとして連続性が確保されている場所としては回遊性の魚類が確認されている武庫川・猪名川・藻川があります。
- ・なお、陸域については鳥類や昆虫類、水路については水草の分布などを参考に生物の生息・生育環境同士の連続性・関係性などについて確認を行いました。ネットワーク機能について評価できるだけの知見などは得られませんでした。

（3）バッファゾーン

- ・コアエリアごとに環境が異なるため一律では設定をしないこととしますが、コアエリアに隣接する場所において大規模な開発などがある場合には緑地などの整備の際に配慮を求めるなどの対応を検討します。

（4）その他

- ・農地、水路、運河・海域、保護樹林・樹木については、類似した環境が複数ある、または情報が不足しているといったことから特定の場所を抽出することはしませんが、生物の生息・生育環境としては重要であるため、重要視する要素とします。なお、重要種が確認された場合などについては個別の対応を検討することとします。
- ・樹林面積が1ha～2ha未満の緑地（大井戸公園、上坂部西公園、近松公園、小田南公園周辺）については周辺の緑化が進めばコアエリアとしての可能性があるため、重要視する要素とします。
※ 小田南公園については再整備が行われることとなっており、現在、再整備後の樹林面積などを推定中ですので位置付けが変更される場合があります。

5 戦略で重要視する場所・要素

- ・生物の生息・生育環境として重要、またはポテンシャル（潜在的な可能性）があり、まちづくりに関する様々な取組とバランスを取りながら将来にわたって大切にしていきたい場所（樹林、河川など）・要素（農地、水路、運河・海域、保護樹木・樹林など）を下図の凡例のとおりとし、定期的に生物調査を実施するなどにより現状を把握するほか、施策などを講じる際には一定の配慮を検討するものとします。

